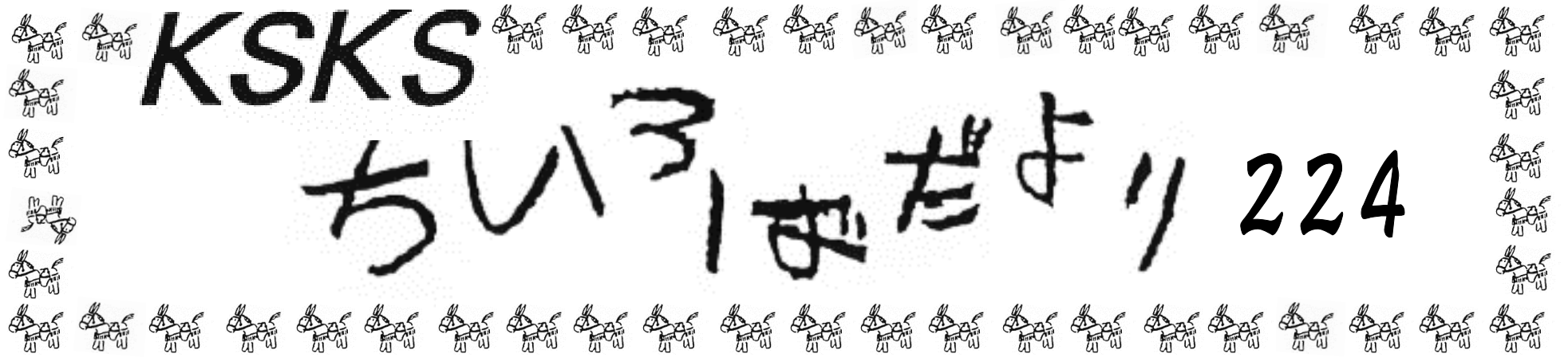




「わたしもそのなかにいる」

ちいろば会理事長 大澤星一

来月10月28日(日)10時から、ちいろば会と愛の園幼稚園と西大和教会の合同バザーが開かれようとして
います。

それぞれの歩みと共に行われてきたバザーですが、調べてみると、西大和教会の記念誌『河のほとり』によ
れば、1968年のぶどうの木の家(西大和教会で平日は仕事をしている女性たちの会)主催のバザーが
第一回ようです。それから始まって1974年5月には会堂園舎建設のためのバザーがあり、同じ年の11月
には教会と愛の園の合同バザーがあったと記録されています。その後毎年合同バザーが開かれ、1980
年代には純利益が150万円(ここ数年の平均からすれば約3倍)とありました。1989年に西大和教会の
裏側にちいろば園が創られてからは、ちいろば園と愛の園と西大和教会の合同バザーとなり、その都度必要
とされていた課題のための資金集めに開かれていたことが窺えます。

毎年バザーの時に僕が話しするのは、まり子先生から聞いた、最初はこのぶどうの木の家の方々が、家
でいらなくなったものを捨てるなら持ち寄って売ったら、思いのほか大きな収入となり、だんだん大きくなったの
よ、というエピソードです。そして時間も長くなり、お昼の時間も挟むから、それじゃあ何か食べるもの出しましょ
うと、食堂も出来たし、また子どもたちも楽しめるようにと、河原で子どもコーナーを始めたりなどなどです。

純利益はひとところに比べればだいぶ少なくなりましたが、それでも長い歴史のある合同バザーなのだなと思
います。本当は、単に集まって物を売ったり買ったりするだけでなく、もう少し意味のあるバザーが出来ればと思
います。ここ数年では、保護者会からの提案もあり、ちいろばの紹介パネル展を行ったり、幼稚園の創立50
年記念コーナーをしたりしました。『河のほとり第三集』には教会員の井戸上侑子さんが、バザーのことについ
て原稿を書いて下さっていて、「収益のためにのみにとらわれ過ぎ」ないことを危惧され、「ふたりまたは三人が
わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中の中にいるのである」との聖書を引用され、私たちの交わり
には必ず主が中心にいと書いて下さっていました。その通りだと思います。教会と幼稚園とちいろば会が交
わりを深め、共に目標をもって支え合って歩めるようにと願っています。

「わたしの中の優生思想」と向き合う

ちいろば園主任奥田陽子

この夏、外部で開催される研修会に呼んで頂き、主に虐待防止に関する内容でお話をさせてもらう機会がありました。参加者のみなさんに「虐待の芽」に気づいてもらうことを目的に、現場での具体的事例をいくつかお話ししたのですが、どの事例も私自身がこれまでにやってきた不適切な支援内容ばかりで、みなさんにお話するのは恥ずかしいな…と思いながら紹介させてもらいました。

不適切な支援は、自身にはその気づきがなく、周囲から指摘されて初めて気づくことも多いように思います。先日、ちいろば会のイベントで、利用者のみなさんの作品展示をすることにしました。ブルーベリー畑で収穫した規格外の実を使って染め物をしたり、興味のある文字や絵を描いたりして、日常の活動の中で面白い作品が沢山出来ていたので展示を企画したのですが、私は個々の作品に作者のみなさんの氏名を明記することを怠っており、準備段階で施設長から「なぜ氏名が無いのか？」「主体は誰なのか？」と指摘されて、ハッとしました。積極的に隠すつもりがあったわけではありません。しかし、結果的にそれぞれの作者である個人個人を大事にできていなかったのです。みなさんの意思ではなく、私の意志によって個人名を必要としないような展示をしようとしたことは大変失礼なことであったと反省しています。そしてこの行ないは、相模原やまゆり園事件で犠牲者の氏名を伏せた報道がなされていることと類似することに気づかされました。

こうした行ないのどこかには自分自身の中に「優生思想」が潜んでおり、それはあらゆるところで露呈します。だからこそ、こまめに自分を見つめる機会が必要なのだと思います。なぜ私はそのような行動をとったのか？なぜあんな言い方をしたのか？等といったことを丁寧に振り返り、自分の傾向や障害者観、差別心と向き合うことが大切だと考えます。

社会の障害者観は、こうした一人一人の障害者観によって創られていくのだと思います。つい先日、利用者のみなさんと外出をした際、車椅子利用者の方が一緒だったので駅で段差解消板の利用をお願いしたところ、駅員から乗車位置を指定されたので、「どの車両に乗るかは私たちの都合、希望で決めるものでは？」と抗議しました。しかし次の駅でもまた駅員から「一番後ろの車両に乗って下さい」と言われたので、再び拒否して乗りたい場所へ移動し乗車したところ今度はホームから、「降りて下さい！降りて移動して下さい！」と言ってきたのです。こんなこと障害のない人には言わないことでしょう。障害を理由に条件を付けた排除であり、明らかな差別だと感じ非常に腹立たしい想いで帰ってきました。

一歩まちへ出ると様々な障壁に遭遇します。そのおかしさに声を上げるとともに、自分の身近なところではどうか、障害をもつ利用者の方と対等な関係が築けるような合理的配慮は行き届いているのか、知らず知らずのうちに体良く排除しているようなことはないか等、しっかりと足元を見つめて行動していきたいと思います。

相模原やまゆり園事件後に奈良で開かれた集会で、藤井克徳さんは「過ぎ去ったこと（過去）は変えられないけど、これからのこと（未来）は変えられる。私たち自身も変えられる。」とおっしゃいました。まずは「わたしの中の優生思想」に気づき、自分自身から変わらないといけないのでしょうか。

★ ★ しゃしん とも しょうかい **写真で友だち紹介** ★ ★

このページでは、利用者の皆さんに、お友だちをひとり選んで写真を撮ってもらい紹介してもらいます。紹介をされた人には、次号であらたなお友だちを紹介してもらうという数珠つなぎのコーナーです。

きむらともこ 木村朋子さんより たぐち ゆりこ 田口由里子さんを紹介します。



私は 食品 せいか 部門の 田口さんを
 紹介します。 田口さんは 元気 いっぱいの
 明るい人です。
 今 三郷郡 田の 温泉 受付の仕事を
 しています。
 田口さんも これから 糸東 習 はじめます。
 一糸者に行ける日が楽しみです
 木村朋子



にしだ くみこ 西田久美子さんより かじわらたくま 梶原拓馬さんを紹介します。



食品 せいかでしごとしてる
 がじわらさんです
 グループホームのおかずづくりをしてます
 やさしいです
 まがりのドスキーしごとがはついています
 昼やすみおはなししています



第24回

People First Convention in Nara

ピープルファースト大会

in 奈良

花喰い鳥
はなく とり

テーマ

●なかまと共に 差別・虐待のない
平和な社会をつくろう

●言いたいことを言いあおう

2018年

12月1日 土

全体会 13:00～17:00

交流会 18:00～20:00

全体会会場 奈良県文化会館

交流会会場 ホテル日航奈良

12月2日 日

分科会 9:00～10:30

閉会式 11:00～12:00

分科会会場 奈良県文化会館

奈良商工会議所など

閉会式会場 奈良県文化会館



助成：キリン福祉財団

後援：奈良県／奈良市

主催

ピープルファースト大会全国実行委員会

住所
電話〒636-0213 奈良県磯城郡三宅町伴堂850 ひまわりの家 内
0745-42-2919

「畑さんの園芸講座」

ちいろば園職員 新宮由士

7月26日ちいろば園で畑さんの園芸講座が開催されました。

畑さんはNHKテレビでガーデニング講師として活躍されていて今年度、2回ちいろば園のブルーベリーの栽培指導にも来て頂くことになっています。

園芸講座では園芸の楽しさや自然から学ぶことなど様々なことを話して頂きました。

自然界には全てのことに意味があり、決して無駄なことなどないこと。生き物全てに役割があり、自然はつくられること。決めつけから入るのではなく、一つ一つの現象に耳を傾け、自然と対話することが大切であるという話をされていました。

この話を聞き、日頃から、障がいを持つ人たちと関わる中で通じるものがあると感じました。この人はこういうタイプだから、こんな障がいを持っているからと決めつけから入ってしまっているのではないか、一人一人に寄り添った支援が来ているのかと改めて振り返る機会になりました。参加されていた方の中には利用者の親御さんもおられ同様のことを感じたと話されていました。

畑さんは、お金で買えないものが多いほど人生は豊かになると持論されており、園芸や自然と触れ合うことの魅力を園芸講座の中で熱く語って下さいました。畑さんは、今秋もちいろば園に足を運んで頂けることになっています。その時はまたこのような場を設けることが出来ればと考えています。

グループホームの暮らし 紹介します！！

ここではグループホームを利用しているみなさんがどのような暮らしをしているのかを紹介します。

今月は、洗濯について・・・

身の回りの事はできるだけ自分で出来るように支援（環境づくり、ツール）をしています。

グループホーム職員 窪美代子



じぶんのいろのハンガーでほす



かごに



タオルはたたんで、
せんたくものをたたむ



アイロンがけ

クローゼットに

ちいろば会職員リレー エッセー



わたしの好きな言葉

グループホーム職員 岩崎真滋

私の好きな言葉は「感謝」です。今年の8月、母校の奈良大付属高校が夏の甲子園に初出場し、春・夏の大会を通じて初勝利もあげてくれました。私は、小学4年生から高校まで野球部に所属していました。毎年この時期になると、当時の高校の野球部OB仲間と一緒に、後輩たちを応援していたので、今年は特に興奮して観戦していました。

野球部での青春時代は私の人生の大きな糧となっていますが、毎年この時期になると、その厳しい練習の思い出とともに、高校の野球部の監督が当時口をすっぱくして言っていた言葉思い出します。

それは、「あたりまえに野球ができることに感謝しなさい」という言葉です。戦後の貧しい時代には、ただその日を生き抜くために、自分のやりたいことなんてできなかった。日々の練習は厳しいかもしれないが、自分たちが好きなスポーツができる環境とそれを支えてくれる家族の存在、社会に感謝しなさいと教えてくれました。

私の働き始めた頃は就職氷河期ということもあり、厳しい就職戦線のなか、感謝が大事だという気持ちを持つ余裕がなかった時期もありました。しかし、自分自身の43年間の人生を振り返ると悩んだり苦しんだときいろんな人に支えてもらい助けてもらってきたなあをつくづくおもっています。

ちいろば会に入職させてもらって1年半がたちましたが、はじめての福祉の現場で右も左もわからない自分にとって、本当に様々な方に支えられて今の自分があると改めて感じています。私の日々の仕事は、普段から職員の皆様のご指導やフォローがあるから、できています。ちいろばでの生活では、利用者の方の笑顔や、家族の方からの励ましの言葉にいつも助けられています。そして地域の皆さんからもいつも暖かい言葉をかけていただきます。

あたりまえのように仕事をし生活をするということが、いかに貴重で大切なことであるか、これからいろんなことに感謝の気持ちをもって、できる限りそれを感謝の言葉や行動に示して生きていたいと思います。

次は、グループホームの高田 拓さんにバトンを渡したいと思います。

次回からのテーマは『仕事をするうえで心がけている事』です。

よろしくお願いします。

ちいろば会職員研修に参加して

7 月 1 4 日(土)にちいろば会夏季法人研修がおこなわれました。今回は講師に奈良県立同和問題関係史料センターの奥本武裕さんをお招きし『すべての人が尊重される地域社会をめざして～「部落史の見直し」から考える～』をテーマに講義を受けました。
その時の感想を二人の職員に報告してもらいます。

県立同和问题資料センターの奥本武裕さんから「すべての人が尊重される地域社会をめざして」と題しての講演をお聴きしました。その中で、たくさんの学びがありました。印象に残っているところは、

- ・私たちは、互いの生活をよりよいものにするために、社会の中で協力して暮らしている。しかし、一方で、社会にはさまざまな課題が存在している。そのひとつが「部落問題(同和问题)である。これまで、学校教育や、行政等で様々な取組が進められ、被差別部落(部落)の環境改善、県民の意識向上等の成果をあげてきたが、さまざまな差別事象は後を絶たず、部落に対する差別意識は解消したとはいえないのが現状である。

- ・部落問題は、私たちの身の回りにある多様な人権問題のひとつ。そして、それは、政治支配がつくってきたものでも、経済格差から生じたものでもなく、部落と周辺地域社会との関係性から生じる問題であることがわかってきた。そこで私たちが日常生活を送っている地域社会のありようを見直し、新しい地域社会を築くことをとおして問題の解決をめざしていく必要がある。ということでした。

学校で習った部落差別の歴史とは違う新たな観点に驚き、差別のない地域社会を築くためには、お互いの多様性を認め合う「開かれた」地域社会をみんなでつくっていくことが必要とのお話、部落差別をはじめ、人権について、だれもが幸せに暮らせる社会について、改めて考える良い機会になりました。

(グループホーム職員 阪口 寿久)

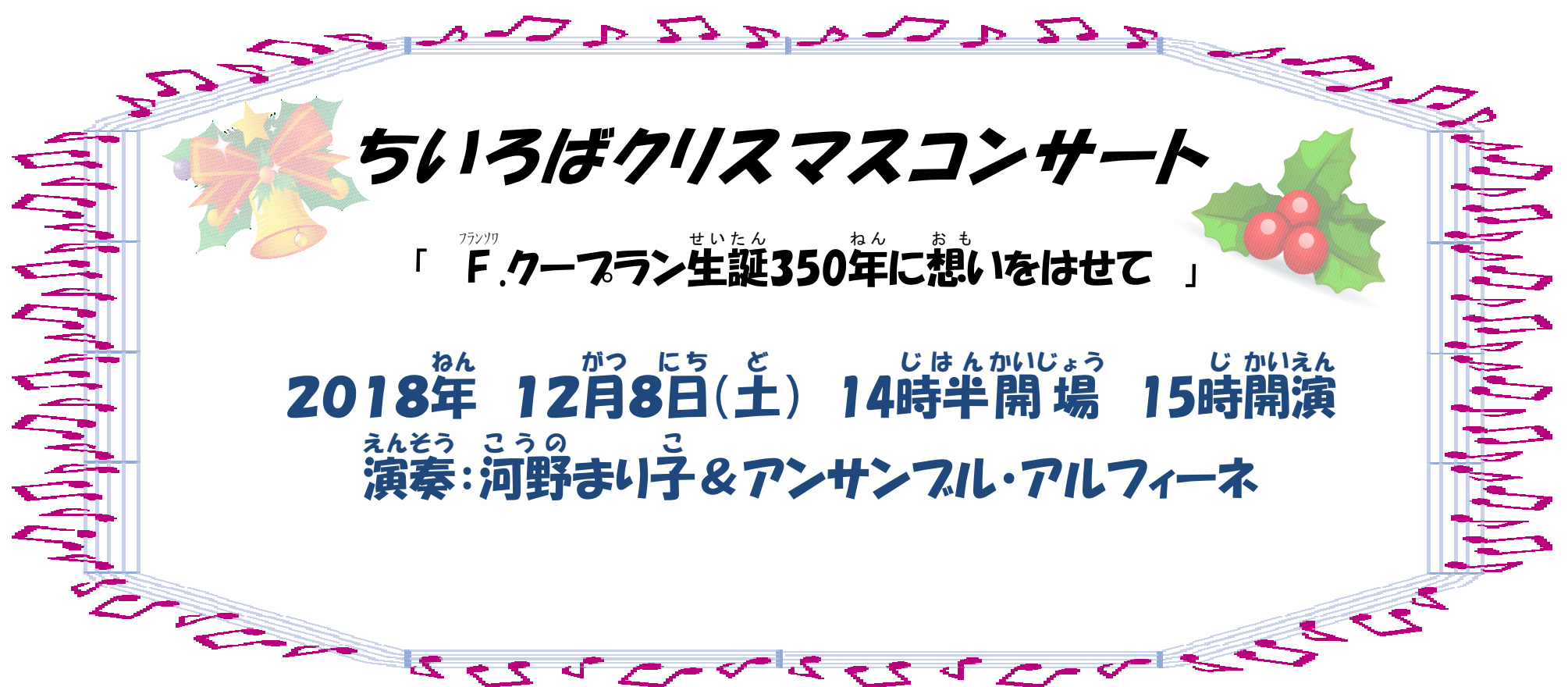
今年の夏季法人研修では部落差別について学びましたが、私の部落差別に関する知識が、かなり間違っている事に気が付きました。それは何故なのか…自問してみると、はるか昔、小学校のころに習った部落差別問題は私の中でそこで終わっていたからでした。今も続いている部落差別問題を知ろうとしなかった自分が一番問題なのではないかと感じました。異質なものを排除してしまおうとする気持ちは、残念ながら自分にもあり、相手を知らないということから始まっているのだと思います。そういった点では、障害者差別も部落差別も同じだというお話を聞き、心から納得しました。今回、部落の発生からその歴史について、いろいろお話を聞くことができ、改めて問題意識を持ったとともに、さらなる疑問点もたくさん出てきました。それをもっと知っていきたいと考えています。

(ちいろば園職員 土橋 美香)

☆後援会費・ちいろばだより年間購読料 (2018 年 6 月 1 日～2018 年 7 月 31 日)

後藤芳子、岡本啓子、木村俊彦、諏訪英子、高谷三郎、中村康子、田中伸一、堀内俊文、
松村上子、太井律子、井戸上聰、大西眞規子、木村和子、小園俊彦、ト田啓三、中園大三郎、
安部ひとみ、木ノ脇悦郎、木ノ脇廣子、高倉常子、永井雅子、本圓喜代美、松藤みどり、
伊藤繁宜、佐藤薫・美雪、志賀穰、西浜檜和、草野陽子、中村由美子、新居サツキ、
牧村スマ子、森山幸子、山内イネコ、吉田和子、篠原範子、和田泰子、米田守、奥田陽子、
胡内まさみ、松本敬子、辰己真奈美、長田初恵、斉藤総一郎、土橋美香、新宮由士、
森谷公将、磯道香織、窪田義廣、本田佳子、大島秀夫、後藤弥生、坂本友希、吉田陽亮、
松長満、井上眞理子、藤原小百合、木下洋伸、小倉奈々、富田久江、大平和幸、
奈良人権部落解放研究所、大賀太、山中邦夫、高見良平、廣野和子、木村昇、梅野玲子、
鈴木莉子、吉岡佳菜、梶川虔二、石渡裕子、藪田又弘、足立拓矢・るり、平山恵理、
谷野裕悟、吉井紗英、高島努、黒川正通、梶原拓馬、井上基子、川端邦芳、岩崎和代、
瓜生美千子、松井紀久子、東直輝・千晶、橋本勝寿、松本健一、石原慎也、長尾良子、
文新善、岡山定男、石川巖、辰巳普宣、大谷龍樹、吉川和美、村上智子、光田邦二、
片山雄太、甲斐眞知子、生活支援センターもちつもたれつ、矢野雄大、篠原希代子、山田援、
山田歩、阿波宏晃、経堂洋子、藤原智久、大谷志乃ぶ、新谷貴雄、中島佳代子、中川朋子、
北飯史子、濱野由利子、森川佳紀、権利擁護支援センターななつぼし

以上 敬称は略させていただきます



ちいろばクリスマスコンサート

「 F.クーフラン^{フランク}生誕^{せいたん}350年^{ねん}に想い^{おも}をはせて 」

2018年^{ねん} 12月^{がつ}8日^{にち}(土^ど) 14時半^{じはんかいじょう}開場 15時^{じかいえん}開演

演奏^{えんそう}: 河野^{こうの}まい子^こ & アンサンブル・アルフィーネ

二〇〇〇年十二月十二日 第三種郵便承認 毎月 (一・二・三・四・五・六・七・八の日) 発行

KSKS ちいろばだより

編集人／ ちいろば会後援会

年 6 回 頒価 50 円

連絡先／ 奈良県生駒郡三郷町勢野北 5 - 6 - 1 4

TEL : 0745-72-1923 FAX : 0745-31-5760

発行人／ 関西障害者定期刊行物協会

大阪市天王寺区真田山町 2 - 2 東興ビル 4 F